

介護職員初任者研修カリキュラム及び日程表

研修期間 令和3年5月6日～令和3年11月30日

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
1. 職務の理解 【基準時間6時間（うち通信上限0時間）】						
多様なサービスの 理解	第1回目 5月6日 16:00～ 18:00	0時間	2階会議室 20名	[3] 楠田幸司	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護」とは何か、国の福祉理念に基づく役割を、社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度と絡めながらの説明 ・介護保険サービス（利用者が利用できるサービスの種類、役割、特色について） ・介護保険外サービスの種類や具体例
	第2回目 5月10日 16:00～ 17:00 (計3時間)					
介護職の仕事内容 や働く現場の理解	第3回目 5月12日 16:00～ 18:00	0時間	2階会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場の仕事内容。 ・実際のサービス現場の具体的なイメージ（体験談をおりまぜて説明） ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 ※「職務の理解」DVD視聴。
	第4回目 5月14日 16:00～ 17:00 (計3時間)					
小計	6時間	0時間				
2. 介護における尊厳の保持・自立支援 【基準時間9時間（うち通信上限7.5時間）】						
人権と尊厳を支える介護	第5回目 5月17日 16:00～ 18:00 (計2時間)	第6回目 5月19日 16:00～ 18:00 (計2時間)	2階会議室 20名	[2] 津川繁	ア	(1) 人権と尊厳の保持 <ul style="list-style-type: none"> ・個人としての尊重 ・アドボカシー ・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感 ・尊厳のある暮らし ・利用者のプライバシーの保護 (2) ICF・

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						介護分野における ICF (3) QOL ・ QOL の考え方 ・ 生活の質 (4) ノーマライゼーション ・ ノーマライゼーションの 考え 【実施方法】 「介護分野における ICF の視点の活用と QOL の 向上」について小グルー プに分かれてグループデ ィスカッション (5) 虐待防止・身体拘束禁 止 ・ 身体拘束禁止 ・ 高齢者虐待防止法 ・ 高齢者の養護者支援 ※具体例をあげながら (6) 個人の権利を守る制度 の概要 ○個人情報保護法 ○成 年後見制度 ○日常生活自立支援事業
自立に向けた支援	第7回目 5月21日 16:00～ 18:00 第8回目 5月24日 16:00～ 18:00 (計4時間)	第9回目 5月26日 16:00～ 17:00 (計1時間)	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	(1) 自立支援 ・ 自立・自律支援 ・ 残存能力の活用 ・ 動機の欲求 ・ 意欲を高める支援 ・ 個別性/個別ケア ・ 重度化防止 (2) 介護予防 ・ 介護予防の考え方 【実施方法】 利用者の事例について具体 的な自立支援を小グループ に分かれてグループディス カッション
小計	6時間	3時間				
3. 介護の基本				【基準時間6時間(うち通信上限3時間)】		

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
介護職の役割、専門性 と多様職との連携	第10回目 5月28日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	(1) 介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ・重度化防止・遅延化視点 ・利用者主体の支援姿勢 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠のある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム (3) 介護に関する職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担
介護職の職業倫理	第11回目 5月31日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[2] 津川繁	ア	職業倫理 ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉制度等) ・介護職として社会的責任 ・プライバシー保護・尊重 【実施方法】 「倫理」とは何か、なぜ「倫理」が必要とされるのかを、利用者目線で考えるために、具体的な事例を用いたグループディスカッションを行う
						1) 介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
介護における安全 の確保とリスクマ ネジメント	第12回目 6月2日 16:00～ 17:00 (計1時間)	0時間	2階 会議室 20名	[2] 津川繁	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ・リスクマネジメント ・分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町への 報告等) ・情報の共有 (3) 感染対策 ・感染の原因と経路(感染 源の排除、感染経路の遮断) ・「感染」に対する正しい 知識 ※「高齢者に多い疾患・緊 急時の対応法と感染予防」 DVD視聴と解説 (看護出版発行)
介護職の安全	第13回目 6月4日 16:00～ 17:00 (計1時間)	0時間	2階 会議室 20名	[2] 津川繁	ア	介護職の心身の健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護 の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い・うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策
小 計	6時間	0時間				
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 【基準時間9時間(うち通信上限7.5時間)】						
介護保険制度	第14回目 6月7日 16:00～ 18:00 (計2時間)	第15回目 6月9日 16:00～ 17:00 (計1時間)	2階 会議室 20名	[3] 楠田幸司	ア	1) 介護保険制度創設の背景 及び目的、動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの 転換 ・地域包括支援センターの 設置 ・地域包括ケアシステムの 推進 (2) 仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度としての基本的 仕組み ・介護給付と種類

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・予防給付 ・要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定
医療との連携とリハビリテーション	第16回目 6月11日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[1] 西健次郎	カ	<ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護 ・訪問介護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーション理念 ※介護職に必要な医学知識とケアのポイント」 DVD視聴と解説 (看護出版発行)
障害者自立支援制度およびその他制度	第17回目 6月14日 16:00～ 18:00 (計2時間)	第18回目 6月16日 16:00～ 18:00 (計2時間)	2階 会議室 20名	[3] 楠田幸司	ア	<ul style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉制度の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念 ・ICF (国際生活機能分類) (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
小計	6時間	3時間				
5. 介護におけるコミュニケーション技術 【基準時間6時間 (うち通信上限3時間)】						
介護における コミュニケーション	第19回目 6月18日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	<ul style="list-style-type: none"> (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 <ul style="list-style-type: none"> ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語コミュニケーションの特徴 (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 ※体験談を含めた解説と実践方法
介護における チームのコミュニケーション	第20回目 6月21日 16:00～ 18:00 (計2時間)	第21回目 6月23日 16:00～ 18:00 (計2時間)	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	(1) 記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義 ・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書(訪問・通所・入所・福祉用具貸与等) ・ヒヤリハット報告書

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 W 1 H (2) 報告 ・ 報告の留意点 ・ 連絡の留意点 ・ 相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ・ 会議 ・ 情報共有の場 ・ 役割の認識の場 (利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼) ・ ケアカンファレンスの重要性 <p>【演習実施方法】 事例を用いてグループワークにて個別援助計画を作成する</p>
小 計	4 時間	2 時間				
6. 老化の理解 【基準時間6時間 (うち通信上限3時間)】						
老化に伴うこと と体の変化と日常生活	第 22 回目 6 月 25 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	第 23 回目 6 月 28 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	ア カ ア	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防衛反応 (反射) の変化 ・ 喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体的機能の変化と日常生活への影響 ・ 咀嚼機能の低下 ・ 筋・骨・関節の変化 ・ 体温維持機能の変化 ・ 精神的機能の変化と日常生活への影響
	第 24 回目 6 月 30 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	第 25 回目 7 月 2 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	ア カ ア	1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折 ・ 筋力の低下と動き・姿勢の変化 ・ 関節痛 (2) 高齢者に多い病気とそ

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
高齢者と健康						<p>の日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器障害 (脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ・循環器障害の危険因子と対策 ・老年期うつ病症状 (強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) ・誤嚥性肺炎 ・病状の小さな変化に気付く視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい <p>※実例をあげて解説</p>
小計	4時間	2時間				
7. 認知症の理解				【基準時間6時間 (うち通信上限3時間)】		
認知症を取り巻く状況	第26回目 7月5日 16:00～ 17:00 (計1時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	ア カ ア	認知症ケアの理念 <ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 (できることに着目する) 【認知症ケア】DVD視聴と解説 (看護出版発行)
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	第27回目 7月7日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	ア カ ア	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理 (脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア) ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
					ア カ ア	(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状

(別紙様式 4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	第 28 回目 7 月 9 日 16:00～ 18:00 (計 2 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の行動・心理症状 (B P S D) ・不適切なケア ・生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界に合わせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考ええること ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子・表情・視線 ・姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア
家族への支援	第 29 回目 7 月 12 日 16:00～ 17:00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の受容過程での援助 ・エンパワメントの重要性とレスパイトケアの実践
小 計	6 時間	0 時間				
8. 障害の理解 【基準時間 3 時間 (うち通信上限 1.5 時間)】						
障害の基礎的理解	第 30 回目 7 月 14 日 16:00～ 17:00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	(1) 障害の概念と I C F <ul style="list-style-type: none"> ・ I C F 分類と医学的分類 ・ I C F の考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの概念
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	第 31 回目 7 月 16 日 16:00～ 17:00 (計 1 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	(1) 身体障害 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害 ・聴覚、平衡障害 ・音声・言語・咀嚼障害 ・肢体不自由 ・内部障害 (2) 知的障害

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害 (3) 精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ・統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患 ・高次脳機能障害 ・広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心理の機能障害 ・療育の視点の重要性及びライフサイクル理論を考慮した援助 を講師の実践経験等も含めて
家族の心理、かかわり支援の理解	第32回目 7月20日 16:00～ 17:00 (計1時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	家族への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理解・障害の受容支援 ・介護負担の軽減 ※体験談と関わりについて解説
小計	3時間	0時間				
9. こころとからだのしくみと生活支援技術 【基準時間75時間(うち通信上限12時間)】						
I 基本知識の学習 (10～13時間)						
介護の基本的な考え方	第33回目 7月22日 16:00～ 18:00 第34回目 7月26日 16:00～ 18:00 (計4時間)	0時間	2階会議室 20名	[2] 津川繁	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護 ・利用者主体の介護とは ・生活障害の改善、QOL向上の視点について
介護に関するこころのしくみの	第35回目 7月28日 16:00～ 18:00 第36回目 7月30日 16:00～ 18:00	0時間	2階会議室 20名	[3] 楠田幸司	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶のメカニズムと基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識(マズローの欲求段階説) ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
基礎的理解	(計4時間)					適応行動とその阻害要因 ・ ころの持ち方が行動に与える影響 ・ からだの状態がころに与える影響
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	第37回目 8月2日 16:00～ 18:00 第38回目 8月4日 16:00～ 18:00 第39回目 8月6日 16:00～ 17:00 (計5時間)	0時間	2階 会議室 20名	[1] 西健次郎	カ	・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・ 骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・ 自律神経と内部機関に関する基礎知識 ・ ころとからだを一体的に捉える ・ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ・ 高齢者の健康と老化(QOL・ADL・IADL)の評価と維持向上について
I計	13時間	0時間				
II 生活支援技術の講義・演習						(50～55時間)
生活と家事	第40回目 8月9日 16:00～ 18:00 第41回目 8月16日 16:00～ 18:00 第42回目 8月18日 16:00～ 17:00 (計5時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・ 生活歴 ・ 自立支援 ・ 予防的な対応 ・ 主体性・能動性を引出す ・ 多様な生活習慣 ・ 価値観 【実施方法】 具体的な援助の失敗事例を用いて、小グループでディスカッションする
	第43回目 8月20日 16:00～ 18:00 第44回目 8月23日	0時間	2階 会議室 20名	[1] 西健次郎	カ	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
快適な居住環境 整備と介護	16:00～ 18:00 (計4時間)					<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー ・住宅改修 ・福祉用具貸与 【実施方法】 具体的な利用者の事例を用いて、行動特性や安全に配慮した快適な環境整備の工夫を小グループでディスカッションする
整容に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第45回目 8月25日 16:00～ 18:00 第46回目 8月27日 16:00～ 17:00 (計3時間)	0時間	2階 会議室 20名 実習場所 地域交流ホ ール	[2] 津川繁	ア	整容に関する基礎知識、整容の支援技術 <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果 【実施方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・着脱の実技指導(ベッド上での半介助・全介助のパジャマ・浴衣交換) ・モーニングケアの実技指導

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
移動・移乗に関 連したところと からだのしくみ と自立に向けた 介護	第47回目 8月30日 16:00～ 18:00 第48回目 9月1日 16:00～ 18:00 第49回目 9月3日 16:00～ 18:00 第50回目 9月6日 16:00～ 18:00 (計8時間)	第51回目 9月8日 16:00～ 17:00 (計1時間)	2階 会議室 20名 実習場所 地域交流ホ ール	[1] 西健次郎	カ	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力活用・自立支援 ・重心・重力の働きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗) ・移動介助(車いす・歩行器・つえ等) ・褥瘡予防 ※高齢者に関する内容に特化せず、視覚障害者や肢体不自由者等の障害特性を踏まえた内容も併せて教授する。 【実施内容】 ・ボディメカニクス(人間の自然な動作の活用)・良肢位・体位の実技指導 ・安楽な体位・褥瘡予防の実技指導 ・ベッド上の体位変換の実技指導 ・車椅子の基本構造・名称

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						と点検の実技指導 ・車椅子の移乗（半介助・全介助のベッド・ポータブルトイレ⇔車椅子）の実技指導 ・車椅子の移動（乗車）の実技指導 ・視覚障がい者の歩行の介護の実技指導
食事に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第52回目 9月10日 16:00～ 18:00 第53回目 9月13日 16:00～ 18:00 (計4時間)	0時間	2階 会議室 20名 実習場所 地域交流ホ ール	[5]藤芳芙美子	ク	食事に関する基礎知識、食 事環境の整備・食事に関連 した用具・食器の活用方法 と食事形態とからだのしく み、楽しい食事を阻害する こころとからだの要因の理 解と支援方法、食事と社会 参加の留意点と支援 ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護 者の意識 ・低栄養の弊害

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備 (時間・場所等) ・食事に関する福祉用具の 活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の整え方及びベッド 上での食事介助の実技指 導 (誤嚥性肺炎の予防) ・視覚障がい者の食事介助 の実技指導
入浴、清潔保持 に関連したこ ろとからだのし くみと自立に向 けた介護	第54回目 9月15日 16:00～ 18:00 第55回目 9月17日 16:00～ 18:00 第56回目 9月21日 16:00～ 18:00 第57回目 9月24日 16:00～ 18:00 (計8時間)	第58回目 9月27日 16:00～ 17:00 (計1時間)	2階 会議室 20名 実習場所 ユニット入 浴室 地域交流ホ ール	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	入浴、清潔保持に関連した 基礎知識、さまざまな入浴 用具と整容用具の活用方 法、楽しい入浴を阻害する ところとからだの要因の理 解と支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭 (身体状況の確 認、室内環境の調整、使用 物品の準備と使用方法、全 身の拭き方、体の支え方) ・目・鼻腔・耳・爪の清潔 方法 ・陰部清浄 (臥床状態での 方法) ・足浴・手浴・洗髪 <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易浴槽での安全な入浴 介助の実技指導 ・ベッド上での全身清拭の 実技指導 ・ベッド上での洗髪の実技 指導

(別紙様式 4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上での部分浴（手浴・足浴）の実技指導 ・ベッド上での陰部洗浄の実技指導 ・目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア
排泄に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第 59 回目 9 月 29 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 60 回目 10 月 1 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 4 時間)	0 時間	2 階 会議室 20 名 実習場所 地域交流ホ ール	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	ア カ ア	排泄に関する基礎知識、様 々な排泄環境整備と排泄用 具の活用方法、爽快な排泄 を阻害するところとからだ の要因の理解と支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・身体面（生 理面）での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド・羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段／お むつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に 及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで 生じる心理的な負担・尊厳 や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者 のトイレ介助の具体的方法 ・便秘の予防（水分の摂取 量保持、食事内容の工夫／ 繊維質の食事を多く取り入 れる、腹部マッサージ） 【実施方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上での挿入便器・ 尿器・おむつ交換実技指導 ・褥瘡予防のための配慮
睡眠に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護	第 61 回目 10 月 4 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 2 時間)	第 62 回目 10 月 6 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	2 階 会議室 20 名 実習場所 地域交流ホ ール	[4] 吉生慶太 [6] 中間貴史	ア カ ア	睡眠に関する基礎知識、さ まざまな睡眠環境と用具の 活用方法、快い睡眠を阻害 するところとからだの要因 の理解と支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						光、音、よく眠るための寝室) ・安楽な姿勢・褥瘡予防 【実施方法】 ・シーツ交換の実技指導
死にゆく人に関 連したところと からだのしくみ と終末記介護	第 63 回目 10 月 8 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 64 回目 10 月 12 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 65 回目 10 月 14 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 66 回目 10 月 18 日 16 : 00 ~ 18 : 00 (計 8 時間)	第 67 回目 10 月 20 日 16 : 00 ~ 17 : 00 (計 1 時間)	2 階 会議室 20 名	[2] 津川繁	ア	終末期に関する基礎知識と ところとからだのしくみ、 生から死への過程、「死」 に向き合うところの理解、 苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程(高 齢者の自然死(老衰)、癌 死) ・臨終が近づいたときの兆 候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必 要性 【実施方法】 「ターミナルステージに 沿った緩和ケア」DVD視 聴による理解 「共存へのターミナルケ ア」DVD視聴による解説 「高齢者施設での終末期 ケアの関わり方」 DVD視聴による解説
Ⅱ計	46 時間	4 時間				
Ⅲ 生活支援技術演習						(10~12時間)
介護過程の基礎 的理解	第 68 回目 10 月 22 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 69 回目 10 月 25 日 16 : 00 ~ 18 : 00 第 70 回目 10 月 27 日 16 : 00 ~ 17 : 00	0 時間	2 階 会議室 20 名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	・介護過程の目的・意義・ 展開 ・介護過程とチームアプ ローチ 【事例による展開】 ・具体的な利用者の事例 (生活場面・障がい状況の 異なる4事 例)を用いて、それぞれの 介護過程のアセスメント ・目的・

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
	(計5時間)					意義・展開、留意点・チームアプローチの方法等をロールプレイング・グループワークで学習
総合生活支援技術演習	第71回目 10月29日 16:00～ 18:00 第72回目 11月1日 16:00～ 18:00 第73回目 11月5日 16:00～ 18:00 第74回目 11月8日 16:00～ 17:00 (計7時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	(事例による展開) 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例 1.5時間程度で上のサイクルを実施する) ・事例は、「高齢分野」(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施。
Ⅲ計	12時間	0時間				
小計	112時間	14時間				
10. 振り返り 【基準時間4時間(うち通信上限0時間)】						
振り返り	第75回目 11月10日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) ・受講生本人に、研修を振り返って学んだこと(初めて知り理解した事、今まで

(別紙様式4)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
						<p>気付かずにいて気付いた事、これから介護職員として働くにあたって大切だと思う事等)各自どれか一つを選択して記述・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師は受講生の発表の中からポイントを拾い、これまでの研修の復習・確認となる部分の内容を講義、実技演習を行う。 受講生一人ひとりの今後の課題をシートにまとめる
就業への備えと研修終了後における継続的な研修	第76回目 11月12日 16:00～ 18:00 (計2時間)	0時間	2階 会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に学ぶべきこと 研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT, OJT)を紹介 介護職としてのマナー・接遇について 「職務の理解」DVDの視聴で、介護職の働く現場や仕事内容をリアルにイメージしてもらい、学ぶ前と学んだ後の違いも実感させる また、質疑応答にて就業への備えとする
小計	4時間	0時間				
合計	116時間	14時間				

修了評価							【基準時間1時間以上】
項目	通学日時 (時間)	通信 相当分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法	
				【講師番号】 氏名	要件		
修了評価	第77回目 11月15日 16:00～ 17:00		2階会議室 20名	[4] 吉住慶太 [6] 中間貴史	アカア	<ul style="list-style-type: none"> 研修を通しての総評 今後の介護に期待すること 地域での活躍について 筆記試験 	

(別紙様式4)

	(計1時間)					
--	--------	--	--	--	--	--

- 注1 「項目」欄には、各科目を細分化した項目名又はその読み替えにより事業者毎に定める項目名を記載する。項目数が多く、欄が足りないときは、適宜追加して記載する。
- 注2 講義を通信の方法で行う場合、「通信相当分」欄に、通信で学習する内容に相当する講義時間数（科目毎に別紙4に定める時間数を上限とする）を記載する。
- 注3 「担当講師」の「番号」及び「要件」欄には、講師一覧表（別紙様式5）に記載した「番号」及び「講師要件」を転記する。
- 注4 「実施内容及び実施方法」欄には、講義及び演習の具体的進め方や時間、実習を行う場合は実習の内容や時間、方法等を記載する。欄内に記載できない場合は、科目毎に別葉に記載する。
- 注5 記入欄が不足する場合は、適宜欄を追加し、本様式に準じた様式で記入する。